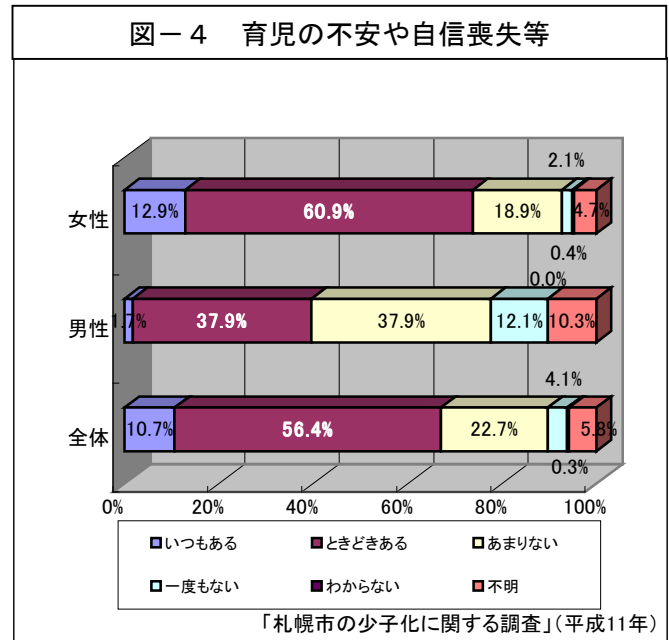
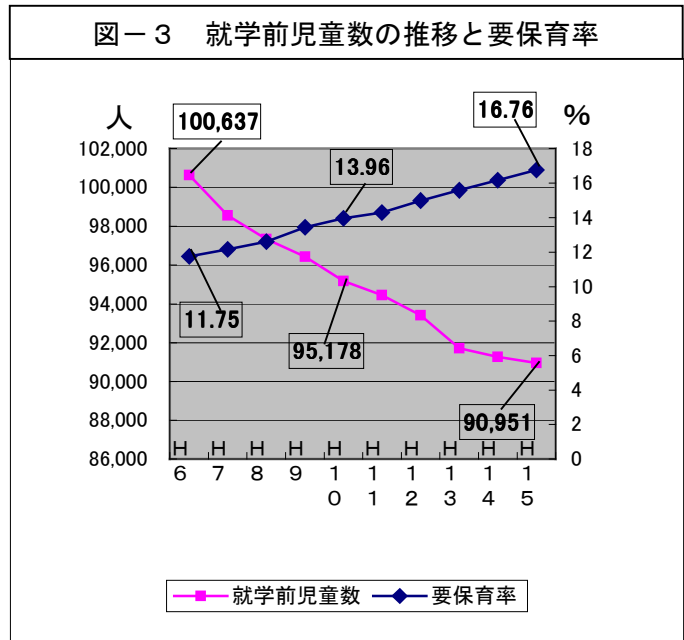
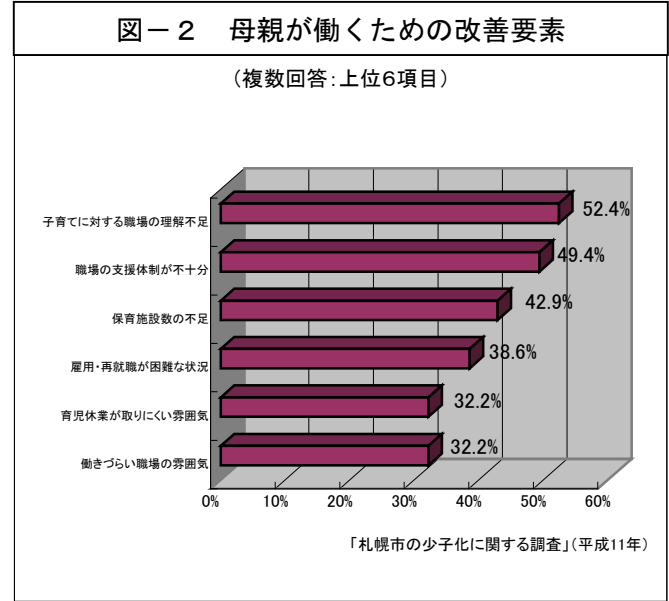
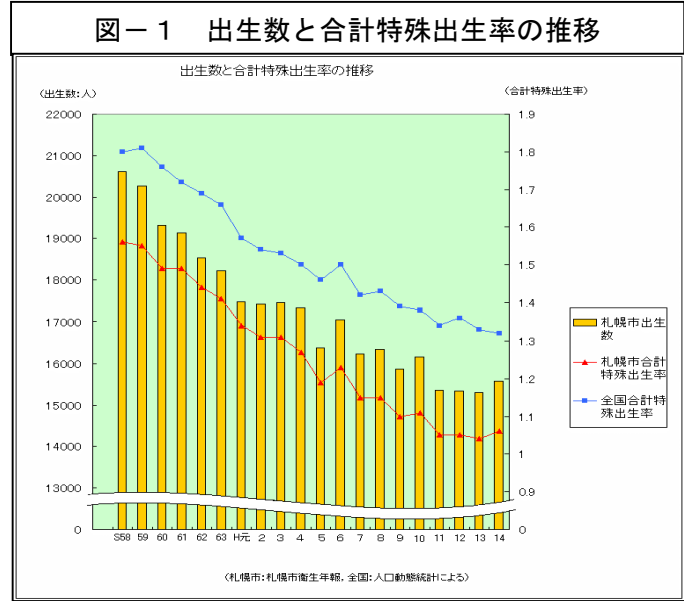


現状と課題

- 本市における少子化の現状**
  - 未婚率の上昇や晩婚化，夫婦の出生児数の減少などに伴って少子化が進んでいる。
  - 札幌市では，一人の女性が生涯に生む子どもの数を示す「合計特殊出生率」が1.06（平成14年）と全国平均（1.32）を大きく下回り，大都市の中でも極めて低い水準となっている。（図－1）
  - 少子化の急速な進行は，社会・経済の活力の低下をはじめ，将来への様々な影響が懸念されており，子どもを生み育てやすい環境づくりが求められている。
- 子育てと就労環境**
  - 子育てをしながら働く女性の多くが，今後も働き続けるために改善が必要なこととして，「子育てに対する職場の理解・支援の不足」や「保育施設の不足」を挙げている。（図－2，図－3）
  - 行政や企業などがそれぞれの役割を担って，子育てをしながら働きやすい環境づくりを進めることが必要となっている。
- 地域での子育て支援**
  - 核家族化や地域での人間関係の希薄化が進むなか，子育て中の女性の多くが育児に不安やストレスを感じており，子どもへの虐待といった深刻な問題も増えている。（図－4，図－5）
  - 子育て家庭を行政と地域全体が協力して支えることによって，その不安の解消を図ることが必要となっている。
- 次代を担う若い世代の環境づくり**
  - これから親となる若い世代が心身ともに健全に成長できる環境が必要である。
  - 特に思春期は心と体の成長のアンバランスから，喫煙・飲酒，人工妊娠中絶など様々な問題が生じやすい時期であり，生活習慣の基盤づくりや健全な母性・父性の育成に取り組んでいくことが必要となっている。

関連データ



要保育率…保育所入所児童数+待機児童数/就学前児童数

